

LCV「諏訪圏情報BOX」第6回

- 放送日 令和3年9月21日(火)、28日(火)
- テーマ 「身近な緑づくりについて」
- 出演者 諏訪地域振興局林務課普及林産係 青柳 智司

○ 聞き手とのやりとり(概要)

(Q) 「緑づくりについて」、諏訪地域振興局 林務課が主催となり、何か取り組んでいる行事はありますか？

(A) はい、あります。大きな行事として、毎年、諏訪地区の方々に集まっていたき、木の植栽や間伐などの森林の整備を行う、「諏訪地区森林(もり)づくりの集い」を開催しています。また、小学校や中学校でみどりを育む活動を行っている「みどりの少年団」を集めて交流を行う、「諏訪地区みどりの少年団交流集会」を開催しています。この2つの行事は、参加者の皆さんや子供達に、森林への関わりや森林の利用を一層進めていただき、森林を育む大切さや森林・林業について理解を深めてもらうために開催している重要な行事です。

(Q) 今年度は、開催されるのですか？

(A) 残念ですが、この2つの行事とも新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とさせていただきます。多くの皆さんに御参加いただきたかったのですが大変残念です。

(Q) 行事は中止となってしまいましたが、私たちが日ごろから行える「身近な緑づくり」についてアドバイスをいただけますか？

(A) 人が集まらなくても「身近な緑づくり」は、いろいろと出来ると思います。

1つ目は、「緑に興味を持ってもらう。」ということです。

森林の中には実を付けたり、花が咲いたり、葉っぱの大きいもの、小さいもの、秋になれば葉が赤色や黄色になるものなど、いろいろな樹木があります、「このような森林の状態や変化に気付いてもらうこと。」そして、「どうして」「なぜ」と「疑問や興味をもってもらおう。」ことです。

2つ目は、「緑について知る。」ということです。

興味を持てば知りたくなります。図鑑やインターネットでいろいろなことを調べる。

調べることにより知識を得ることとなり、益々森林に興味湧いてきます。

3つ目は、「緑と触れ合う。」ことです。

今の時期は、山にきのこが生えたり、クリや栃、アケビなどが実を付けます。お近くの里山へ入っていただき山の恵みを満喫してほしいと思います。森林の中へ入ることの他に、木々の実を育てることも緑に触れ合える体験ですし、花等植物を育てることも「緑づくり」になります。

また、森林に入ると様々な動物に出会うこともあります。森林の中では、動物と植物がお互いに助け合って生きていることが感じられます。ただ、この時期はクマなどの危険な動物に出会うこともあります。森林へは複数で入るようにして、ラジオや鈴を身に着け、こちらの存在を動物たちに知らせることも大切です。

(Q) 「身近な緑づくり」で大切なことがあれば教えてください。

(A) 緑を育てることは、木々の光合成により空気をきれいにしたり、二酸化炭素を吸収したりして、自然環境を良くすることに繋がります。また、地球温暖化防止にも繋がっていきます。皆さん一人一人が、「緑の大切さ」を普段から意識し、活動していくことが大切ですので、「身近な緑づくりについて」ご理解いただき、ご協力をお願いします。

(Q) 「身近な緑づくり」は、「緑の大切さ」を普段から意識して活動することが大切とのお話をいただきました。皆さんも出来ることから始めていただきたいと思います。

青柳さん、本日はありがとうございました。